

Liberty

九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学 学園広報誌【リバティ】

Vol. 01
2009
Spring

【特集1】Talking Session

教育現場こそ、時代の最前線

九州共立大学サポーター

九州共立大学 学長

九州女子大学・九州女子短期大学 学長

乙武 洋匡 × 福原 弘之 × 山崎 信行

OTOTAKE Hirotada

FUKUHARA Hiroyuki

YAMASAKI Nobuyuki

【特集2】MESSAGE From The Platform

前略、教壇より

【九州共立大学】

経済学部 学部長 市瀬 洋子
スポーツ学部 学部長 堀内 担志

【九州女子大学】

家政学部 学部長 三宅 正起
人間科学部 学部長 中村 重太

【九州女子短期大学】

学部長 木山 徹哉

■Progressive Professors

教育活動最前線 【九州女子大学】

家政学部人間生活学科 立松 麻衣子

教育活動最前線 【九州共立大学】

九州共立大学経済学部 生田 淳一

■Active Student's Report

課外で輝く 在学生インタビュー

The Brilliant Days

ふと、思い出のアルバムを開いて



【創立当時の福原学園正門】

昭和22(1947)年、

創立者・福原軍造が長年にわたって

胸に抱いてきた願いと

数多くの苦難が実を結ぶ日が来た。

4月8日、学園創立記念式と福原高等学院の
第1回入学式を挙行。

福原学園は、その後60年にわたる歴史の
第一歩をしるしたのである。

Liberty

学園広報誌【リバティ】

九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学

Vol. 01 2009 Spring

事務局：福原学園 法人事務局 総務部 総務課

T E L : 093-693-3083

U R L : <http://www.fukuhara-gakuen.jp/>

発 行：学園広報委員会

Liberty

学園広報誌【リバティ】
九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学

Vol. 01 2009 Spring

CONTENTS【目次】

■From OB & OG To You
贈る言葉、送る想い

【特集1】Talking Session

教育現場こそ、時代の最前線

九州共立大学サポーター OTOTAKE Hirotsada

乙武 洋匡×

九州共立大学 学長 FUKIHARA Hiroyuki

福原 弘之×

九州女子大学・九州女子短期大学 学長 YAMASAKI Nobuyuki

山崎 信行

【特集2】MESSAGE From The Platform

前略、教壇より

【九州共立大学】

経済学部 学部長 市瀬 淳子

スポーツ学部 学部長 堀内 昭志

【九州女子大学】

保健学部 学部長 三宅 正起

人間科学部 学部長 中村 量太

■Facilities Of LIBERTY HILL 学びの神は設備に宿る

● 附属図書館 ● 保健センター

● 情報処理教育研究センター

■Progressive Professors

教育活動最前線

#1 学生の総合的教育につなげる実体験プログラム

アウト キャンパス

スタディ

in北海道2008

九州女子大学家政学部人間生活学科

立松 麻衣子 准教授

#2 生涯キャリア

開発型教育システムの構築

九州共立大学経済学部

生田 淳一 講師

■Active Student's Report

課外で輝く

#1 九州共立大学NPO活動

NPO法人リハビリ・アスリートクラブ(LAC) 学生コーチ

九州共立大学スポーツ学部スポーツ学科3年

中島 香鷹くん

#2 学生サポーター

九州女子大学人間科学部人間発達学科4年

篠原 望さん

■Liberty

リバティトピックス

21

贈る言葉、送る想い

同じキャンパスで学んだからこそ、分かることがある。

伝えたい想いがある。

この丘に吹く風を呼吸し、ここから巣立って、いま、さまざまな世界で活躍している先輩たち。

彼らが、その熱い想いを、言葉にこめて贈ってくれました。

大学生活は助走期間。
自分を知り、目標を定めて、
全力で進んでください。

私は、経済学部経済学科を昭和55年度に卒業しました。「人格形成を培う教養教育」。

当時から九州共立大

学で実践されていたこの教育で得たものが、実社会に出てからの私にとって、とても大きな力になっています。大学生活は、社会人になるための助走期間です。そこでは、自分のやりたいことを具体的な目標として定め、それに向かって行動することが大切だと思えます。専門知識の修得も当然必要ですが、まず大切なのは自分を理解することでしょう。自分の強みは何か、弱いところはどこか。それを十分に理解したうえで自分の強みにフォーカスし、自らを向上させていくべきです。

また、大学生活では、多くの友人との交流をとおして、人を思いやる気持ちを養い、協調性やコミュニケーション力を身につけてほしいものです。そして、皆で何かをやり遂げる時に感じる一体感とその喜びを実感してください。ひとりではできないことには限りがあります。実社会においても、組織における個人の力は小さなものです。しかし、多くの力が結集したとき、個人のそれよりもずっと大きなものになり得るのです。実社会に出たら、自分が思うようにいかない場面は何度も遭遇するでしょう。それに備えて、大学生活では、教養教育と専門教育をとおして洞察力を磨き、一歩先に何かあるのかを敏感に察し、困難を回避する資質を養ってください。

何よりも大切なことは、物事をすべて明るくポジティブに捉え、仲間と一緒に、一致団結して取り組むこ

知識だけでなく、ものの見方や考え方を磨いてほしい。



昭和55年度卒 九州共立大学
経済学部経済学科
石橋 哲郎
檀博興事株式会社
副社長

とです。これから過す大学生活という貴重な時間をどうか大切にしたいものです。そして、いつの日か、先輩の皆さんとともに九州共立大学OBとして胸を張って仕事ができる日を夢みながら、私もさらに努力を精進していきたいと思います。

私は九州女子大学を卒業後、国立公衆衛生院で1年の学びの後に厚生技官として国立公衆衛生院平成14年に国立保健医療科学院に名称変更と同時に勤務して37年になります。大学時代には栄養指導研究部を通じて沖縄県、遠賀郡で栄養調査や栄養指導、夏の合宿、文化祭など、栄養疫学をとおして肥満児のキャンプ、幼稚園での嗜好調査、栄養指導など数多くの経験、また学会発表や投稿論文の指導もして頂きました。熱心な先生方、先輩方の指導の下で議論を交わしながら泣いたり、笑ったり、苦しくもあり、楽しかったことが思い出されます。学生時代の学びのすべてが後に役立ち、改めて先生・先輩方に感謝の気持ちで一杯です。

管理栄養士として活躍を希望される方は在学中に①論文書き、②サークル活動をお勧めします。管理栄養士としての知識も大切ですが、ものの見方、考え方、展開といったマネージメント能力や企画立案能力などが「雇われる時代」の今日だからです。学生時代だからこそ可能な学びで大いに羽ばたいてください。



昭和45年度卒 九州女子大学
家政学部家政学科
管理栄養士専攻
佐藤 加代子
国立保健医療科学院
生涯保健部 公衆栄養室長

国立保健医療科学院は、国や地方公共団体等と、りわけ保健医療分野で活躍している方、活躍したい方を対象にして高度専門技術者養成を目的に長期研修、短期研修、特定研修、遠隔研修等の卒業教育、また政策課題に向けた研究を行う機関です。私はここで公衆栄養、小児栄養の研究を行いつつ長期短期研修、WHO研修など管理栄養士に関わるほとんどを担当しています。多くの九州女子大学卒業生がここで学び、其々の現場で大活躍です。今年も1人行政栄養士を目指して学ばれ、現在は研究論文の作成に頑張っておられます。

公衆衛生、公衆栄養に関心のある方は大学卒業後に国立保健医療科学院で学んでみませんか。お問い合わせをお願いします。

教員になるきっかけは、
”長崎の事件”

奥田 乙武さんは、2007年から小学校の教壇に立つておられますね。いわば、私たち教員の仲間になられたわけですが、まずそのあたりの経緯についてお聞かせいただけますか。

乙武 ご存じのとおり、僕は大学時代に『五体不満足』という本を出し、その後、ニュースキャスターやスポーツライターのやらせていただいていた。僕、スポーツライターは天職だと思っていました。それくらい面白かったし、楽しかった。ところがある日、そんな僕にひとつのニュースが飛びこんできたんです。皆さんもよく覚えておられると思います。長崎市で起きたあの「男児誘拐殺人事件」です。

福原 2003年の夏に起こったあの事件ですか？

山崎 4歳の幼児を、わずか12歳の少年がゲームコーナーから連れ出し、街のあちこちを連れ回したあとで、パーキングビルの屋上から突き落とした事件ですね。

福原 なんとも、やりきれない事件でした。

山崎 当時は、マスコミも毎日のように取り上げていましたね。

福原 事件の舞台が同じ九州だったし、なんといっても12歳という犯人の年齢

あの子の”SOS”を
受けとめる大人がいたら、
あんな事件は
起きなかったかも知れない。

「新しいページを開いていいですか？」
と聞く子どもたち

奥田 実際に教壇に立つてみて、学校で指導されている子どもや現代の若者たちについて、どんな風に感じていますか。

乙武 暮らしが便利になり、通信手段も発達してきたためか、子どもも若者たちも、「人との関わりを持つ」という機会を失っていますよね。それによるコミュニケーション能力の低下がすごく心配です。

福原 人と向き合う。話す。場合によっては意見を戦わせる。結果、トラブルになったりもする……。それもまたコミュニケーションですものね。

山崎 そういうやりとりをとおして、

がショッキングだった。教育に携わる者としても大きな衝撃を受けましたね。

乙武 僕にとってもそうでした。あの頃、マスコミの論調のほとんどは、少年の年齢や異常な行動にスポットを当てたものでした。

山崎 「凶悪事件の低年齢化」を言い募ったり、神戸の「酒鬼薔薇事件」を引き合いに出したりした人もいましたね。

乙武 はい。その行為の責任も、少年自身にあるとする意見が多かったように思います。でも僕は、少し違う見方をしていたんです。彼は、苦しんでいたんじゃないだろうか……と。

山崎 なるほど。そうでしたか。

乙武 もちろん、あの子にも弱さがあつ

【特集1】
Talking Session

教育現場こそ、 時代の 最前線

九州共立大学サポーター

乙武 洋匡
OTOTAKE Hirohada

九州共立大学 学長

福原 弘之
FUKUHARA Hiroryuki

九州女子大学・九州女子短期大学 学長

山崎 信行
YAMASAKI Nobuyuki

【進行役】九州共立大学 副学長 奥田 俊博 OKUDA Toshihiro

ベストセラーとなった『五体不満足』の出版で脚光を浴び、その後、ニュースキャスターやスポーツライターとして活躍。現在は、東京都杉並区の小学校教諭として教壇に立つ乙武洋匡さん。九州共立大学のサポーターも務める乙武さんを招き、福原弘之学長と山崎信行学長が、教育現場のこと、大学のことを語り合った。

Profile

乙武 洋匡

1976年生まれ。東京都出身。大学在学中に執筆した『五体不満足』（講談社）が、大ベストセラーとなり、脚光を浴びる。大学卒業後は、スポーツライターとしてシドニー五輪やアテネ五輪、サッカー日韓共催ワールドカップなどを取材。2005年から、東京都新宿区教育委員会の非常勤職員「子どもの生き方パートナー」を務める。2007年から杉並区立杉並第四小学校の教諭として勤務している。

OTOTAKE Hirohada

自他を認め合い、いろんな問題を解決しながら社会のなかで共存していく。

そういう能力が低下しているんですね。

乙武 ええ。いまの子どもたちって、驚くほど受動的なんですね。たとえば、授業が終わって休み時間に入っても、「先生、トイレに行っていないですか?」なんて、いちいち聞いてくるんです。

福原 いちいちトイレを……?

乙武 そうなんです。で、僕が黒板に書いたことをノートに書き写すときでも、「先生、新しいページを開いていいですか?」とか、「ここは1行空けて書いたほうがいいんでしょうか?」なんて聞いてくる。笑っちゃいますけど、彼らは真剣なんですね。

山崎 そんなことを真顔で聞かれたら、ちよつと怖いですよ。

自分で考え、判断して行動する能力の大切さ

福原 物事に対して、自分で考えたり、決めたりする力が低下しているんですよ。起きてきたんです。

乙武 そうだと思います。そこで、自分たちで考えて判断するように指導してきたところ、彼らに少しずつ変化が起きてきたんです。

山崎 ほお、どのような?

乙武 たとえば、クラスでいろいろな当番を決めるんですが、そのときに「乙武先生当番」という係をつくろうと言いつつ出したらですね。

福原 もしかして、「乙武さんの面倒

を見る係」とか?

乙武 そうなんです。「乙武先生は、自分で給食を持ってきたり、食べ終わった食器を片付けたりできない。だから当番を決めて、その人が手伝ってあげるといい」なんて、言いだしまして。

山崎 涙が出るような話だなあ。

乙武 ええ、僕もグツとききました。でも、それだけじゃ済まなかったんです。さらにそれを発展させて、じゃあ「給食当番当番」というのもつくろうということになって……。

福原 なんだか、スゴイことになってきましたね。

「乙武先生当番」、そして「給食当番当番」へ。目覚めた子どもたちは、発想の翼をひろげていった。

乙武 ええ。給食当番の人は、配膳する役目だからいつも自分の給食をもらうのが最後になってしまうわけです。だから「給食当番当番」が、給食当番の人の分を配膳してやろう……という考えなんです。

福原 素晴らしい。でも、すごいネーミングですね。



FUKUHARA Hiroyuki

Profile
福原 弘之
学校法人福原学園理事長、九州共立大学学長、福岡県体操協会会長。1941年生まれ。福岡大学経済学部卒。64年に八幡西高等学校（現自由ヶ丘高等学校）の教諭として教壇に立つ。その後、民間企業の経営者を経て2004年学校法人福原学園の常務理事、2005年副理事長などを歴任。さらに、九州共立大学および九州女子大学・九州女子短期大学の副学長を務め、2007年、福原学園理事長に就任。2008年、九州共立大学学長となる。

乙武 やはりそれも、教育が原因でしょいか。

山崎 当然、それもあるでしょう。要因のひとつとして、受験科目が少なくなっていることが挙げられるかもしれないね。むしろ、昔のほうが「視野拡大型」の教育だったように思います。いまの子たちには、もっと物事を広く捉え、総合的に見る力を持つてほしいですね。

福原 社会全体が利根的というか、長期的な計画を立てにくくなって、「いまがよければいい」という風潮になっていますしね。

乙武 やはり、子どもたちは、時代の様相をそのまま映しているわけですね。

福原 そのとおり。言い換えれば、「教育現場こそ時代の最先端」だということ。これをつくづく感じますね。

山崎 「自律処行」は、我が学園の



YAMASAKI Nobuyuki

Profile
山崎 信行
九州女子大学・九州女子短期大学学長。九州大学名誉教授。学校法人福原学園理事。1937年生まれ。九州大学農学部卒。同大学院農学研究科博士課程農芸化学専攻修了。農学博士。67年から69年までスローン・ケタリング癌研究所の客員研究員としてニューヨーク市で過ごす。帰国後、九州大学助手、愛媛大学助教授、九州大学助教授を経て、90年九州大学農学部教授となり、2001年定年退職。この間、九州大学農学部長、同大生物環境調節センター長を務める。2001年九州大学名誉教授となり、2005年より現職。

【特集1】Talking Session

教育現場こそ、時代の最前線



OKUDA Toshihiro

Profile
奥田 俊博
九州共立大学副学長、学校法人福原学園理事、学校法人福原学園評議員、九州女子大学准教授。1965年生まれ。埼玉大学教育学部卒。筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科修了。博士（文学）。清泉女子大学および筑波大学で講師を務め、2000年九州女子大学に着任。2007年、学校法人福原学園理事となる。2008年より現職。

創立者・福原軍造が掲げた理念ですが、創立から60年たつたいまでもまったく色褪せていないということですね。

乙武 “永遠の真理”がそこにあったと。

福原 おっしゃるとおり。時代の移り変わりのなかで、その変化に合わせて変えていかなくてはならないものもある。と同時に、絶対に変えてはならないものもまた確実にある。「自律処行」は、まさにそうした不変の理念だと思っています。

一歩踏み出せば、新しい風景が見えてくる

奥田 こういう難しい時代を生きるた

正しいことを行っていく……。

山崎 そのためには、まず視野を広めること。そして、それを基に総合的な判断ができなくてはならない。その点、いまの若者を見ていると、“各論的”といえますか、何事につけ「視野の狭さ」が感じられてなりません。



めには、どうすればいいのでしょうか。

山崎 まず、希望をもって生きること。

これでしょうね。やれ不景気だ、就職難だと嘆いて「眠れない」と言っている人でも、寝てはいるはずです。

乙武 ですよね。

山崎 朝がこない夜はない。勝機はいつか必ずやってくるんです。でも、だからといってただボーッとしているのはダメです。チャンスが来たときのために、しっかりと準備しておかねばならない。常に自分を磨く努力を怠らないでほしいですね。

福原 私は、小さなことでいいから、まず目標をもつことだと思います。ハードルを高くせず、可能なレベルで、その目標に向かって動いてみる。答えをあれこれと考える前に、まず一步でも踏み出してみる。

乙武 いまの若者たちは、失敗が怖くて、動く前に考えすぎているのかもしれないですね。

福原 ええ。少しでも前に進めば、また新しい風景が見えてくるはずなのに……。

単なる「知識」や「技術」を「実践力」にまで高めるもの

乙武 なるほど、「風景が見える」か……。つまり、物事を広く見たすことや大きく捉えることが大切なんでしょうね。

山崎 ええ。さきほど言いましたが、要するに大事なものは、物の見方と考え方なんです。それが、単なる知識や技術を実践力にまで高めてくれるわけです。

乙武 興味深いですね。詳しく聞かせていただけますか。

山崎 はい。論語に、「学びて時にこれを習う、亦説（よめ）ばしからずや」という言葉がありますね。「学ぶ。折にふれて実践してみる。こんな楽しいことがあるだろうか」。現代風に訳せば、そんなところでしょうか。

乙武 なるほど、分かりやすいですね。

山崎 知識や技術を学ぶことが大切なのはいうまでもありません。でも、的確な見方や正しい考え方がなければ、現実の社会に出たときに、なかなか通用しないわけです。

福原 つまり、実践できない。だから楽しめない。そういうことですね。

山崎 おっしゃるとおりです。これは

時代が変わっても、
変えてはならないもの。
「自律処行」には、
永遠の真理がある。

私の大学でもよく言っていることですが、短大での2年間、大学での4年間の生活をとおして、この「物の見方と考え方」をしっかりと磨いてほしい。それが、社会に出て、自立して活動するときのベースになるはずなんです。いわば、「自律処行」のための基礎ですね。



**「人間力の育成」こそ
私立大学の使命**

福原 その「物の見方と考え方」に加えて、健康的な明るさや礼儀正しき、しなやかさ、清潔感なども磨いてほしいところですよ。

山崎 それも大事なことですよね。

乙武 同感だなあ。

福原 それらを総じて「人間力」と呼んでもいいと思いますが、そうした力は、国立や公立の大学ではなかなか育てにくい。やはり、私立大学にこそ、それを育てていく使命があると思うわけです。

山崎 とくに、私たちのように、九州、福岡という地域に根ざしている大学には、それを強く感じます。知識や技術面はもちろん、人間性の面でも申し分ない。そんな人材を地域に確実に輩出していくこと。これを、学園全体で意識していきたいですね。

**九州の親しみやすさ
福岡のあたたかさ**

奥田 そういえば、乙武さんのお父様は福岡におられるとか？

乙武 ええ。義理の父が西新に住んでいます。

山崎 西新は、なんというか、独特の風情をもった街ですよ。

乙武 九州共立大学のサポーターをやらせていただくようになって福岡に来ることが増えたんですが、訪れるたび

に不思議に思うんです。この親しみやすさというか、あたたかさは、どこから来ているんだろうと……。

福原 これはうれしい言葉ですね。

乙武 この素晴らしい地域に優秀な人材を送り出して、その未来を明るくしていく。それを使命とされている福原学園さんのお手伝いができるなんて、本当にありがたいし、光栄なことだと思っています。

**「自分磨き」といい出会いで
充実した大学生活を送ってほしい**

奥田 では最後に、これから大学生として未来をめざす若者たちにメッセージをお願いします。

乙武 まず、目的意識をもつことですね。大学というのは、ある意味でとても怖いところなんです。ヘタをすれば、麻雀とパチンコだけで4年間が過ぎてしまう。だから、具体的な夢は見つけられなくてもいいから、将来、目標や夢が見えてきたときのために、多くの人に会おうとか、本をたくさん読もうとか、いろんなところを旅してやろうとか……。そんな、自分磨き“のための大学生生活にしてほしい。これが僕からのメッセージです。

山崎 贈りたい言葉はたくさんありますが、ただひとつ挙げるとすれば、

「在学中に生涯つきあえる友をつくること」、これでしょうか。そして、学ぶことをとおして、互いの人間性を磨いてほしい。そう願っています。

福原 私はまず、この極めて厳しい経済状況のなかで大学に進学させてくださった保護者の方に感謝すること。ここからはじめてほしいですね。そのうえで、大学生活をとおして、いい出会い“をつくること。これは、友人だけではなく、教職員も含めた出会いです。

そして、目標が定まったら、それに向かってがむしゃらに進んでほしい。私たちは、そんな皆さんの未来を全力でサポートしていきますよ。

奥田 今日は、素晴らしいお話をありがとうございました。

【特集1】Talking Session

教育現場こそ、
時代の最前線

新しい明日のために
今、何をしたらいいのだろう！
新しい明日は、
みずからきりひらくもの

多感な中学・高校生の時代に、
あなた方も読んだことでしょう。
命、人間、生き方に関する
さまざまな小説や詩、歌などを……。

そして、人として

この世に生まれてきた自分について考え、
どう生きようかと考え、
最高学府への進学を決意し、
九州共立大学経済学部へ進まれたのですね。

では、あなたは本学で
何を手に入れるつもりですか？
あなたの大学生活に対する決意は、
どのようなものですか？

現代社会は、
学んだ知識を実践的に活用するために
必要な力として、

「考え抜く力」(課題発見力・計画力・想像力)だけでなく、
「前に踏み出す力」(主体性・働きかけ力・実行力)や、
「チームで働く力」(発進力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・
規律性・ストレスコントロール)を求めています。

この3つの能力、12の要素のうち、
あなたが得意な力(強み)は何でしょうか？
逆に、不得意な力(弱み)は何でしょうか？
強みをさらに強くし、
弱みを強みに変えることはできないのでしょうか？
できるはずですよ！

皆さん、本学では、
まずこの問題から考えてみませんか？
そして、3〜4年後が
どのような社会であっても、
自信と底力を持って生き抜くための、
あなた独自の力をつけましょう。
経済学部では、教員も職員も全力をあげて、
あなたをバックアップします。

MESSAGE From The Platform

【前略、教壇より】

Message

大学とは、なにか。

なにを、どう学び、どのようにして

未来を切り開けばいいのか。

そんな問いかけに答えるように届いた

教壇からのメッセージ。

その言葉に込められた

熱い想いを受けとめてほしい。

大学で何を学ぶのか 大学生としての 自覚を持って学生生活を

入学生の皆さんおめでとうございます。
受験競争の中で難関を突破され、
あらたなるロマン(夢)に向け、
希望に胸を膨らませている事でしょう。
さて大学に何をもとめるのか、
さらに大学で何を学ぶのかを考えていただきたい。
大学で学問する、勉強するということは、
中学や高校での勉強とは意味が違うし、
また違わなければならない。
つまり大学では、
専門が決まっているという事のほかに、
勉強する態度という、根本的に大事な事がある。
この態度とは大学以前の態度を
180度転換したものでなければならない。
例えばでき上がった知識を身につける、
あるいは丸暗記するだけでは不十分です。
それよりもむしろ、講義、実技に触発されて、
それぞれに自分で考える力を養うことが、
勉強の主眼になっています。

「我々は大学生なんだ」という自覚を持ち、
さらに生きている感じを大切にすると、
好きなことを一生懸命やる事です。
自分が一生懸命できるのは何かと
考えてみてください。
少しでもいいから前に進む事だと思います。
私の師と仰ぐ一人の先生の言葉に、
「なかなか出来ない当たり前
それが出来たら一人前」があります。
何をやるにしても難しいから挑戦、
そこに感動が生まれるのです。
後を振り返るのも大切だと思いますが常に前へ、
前へと進んでください。
そして良い時も悪い時も
笑顔・明るく・元気で学生生活を送ってください。
無限の可能性を持った諸君、
共に頑張りましょう。期待してます。

九州共立大学スポーツ学部長 堀内 担志

専門は、体育方法学および体操競技。「人間基礎演習」「スポーツ学演習」「コーチング各論」「器械運動」他の授業を担当。
「夢や理想を持ちつづけることが大切」と語る。

HORIUCHI Tanji 堀内 担志

人のために困難に立ち向かう勇氣、 継続することの勇氣、 そして達成させる勇氣を！

新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。
「勇氣」とは目標に向かって進んでいく強い心を指します。
大学生としてそれぞれの専門領域で勉学する中で、
この勇氣をぜひ養いましょう。

家政学部は教育研究の目的は、学は「自律処行」の理念に立脚し、
「共生・健康・福祉」の視点から教育・研究を行い、
各専門分野の知識・技術と幅広い教養を身につけ、
社会に貢献できる豊かな人間性と倫理性を備えた人材の養成です。
社会の中で勇氣を発揮するためには、
優れた人間性と高い倫理性が大切です。
人から尊敬される人であってはいじめて人のために何かをやるものです。

家政学部では女性の社会進出をサポートする
多くの免許・資格が取得できます。
人間生活学科では生活を科学的な視点で捉え、
ライフスタイルを創造します。
栄養学科では食と栄養のエキスパートになり、管理栄養士を目指します。
両学科とも実験・実習授業が充実しており、
実践力を備え、勇氣ある人材を社会に送り出しています。

まず自分に厳しくあれ！
そして、真心と感謝の気持ちを持って
人のために困難に
立ち向かう勇氣を！

MIYAKE Masaki 三宅 正起

九州女子大学家政学部長
三宅 正起

専門は、食品科学・食品工学。「食品学/実験」「食品機能論」他の授業を担当している。趣味は、お酒の飲み比べ。九州に来て、焼酎に親しむ機会が増えたという。

NAKAMURA Shigehiro 中村 重太

九州女子大学人間科学部長
中村 重太

専門は、理科教育学、環境教育。「理科概論」「理科指導法」「保育内容(環境)」「総合演習」など数多くの授業で学生と接している。

※中村重太人間科学部長の任期は3月31日までであり、4月1日に太田光洋教授が人間科学部長に就任予定

ヒトの発達成長や
文化の継承発展に携わる
人材を育成する、
教育・文化の学びの場、
それが人間科学部

「ヒト」は、生来の知的好奇心を基に、
知的に活動して「人」へと発達成長し、
知的に生きる権利を持っています。

人間科学部は、そんな「ヒト」と直接に関わりを持つ
専門職を養成しています。

乳幼児や児童が立派な人へと発達成長するために、
適切な環境を提供し支援する保育士や教師などをめざして、
保育学や教育学、心理学などを学ぶ、

それが人間科学部の「人間発達学科」です。

また、先人によって創られた

文化の継承と発展に関わる

専門職や国内外で活躍する国際社会人をめざして、

広く諸文化を学び、

高度なコミュニケーション能力を習得する、
それが人間科学部の「人間文化学科」です。

落ち着いたキャンパスで学ぶ中で、

ヒトや文化に関わる仕事の大切さや喜びを、
きつと感じると確信しています。

教職員もそんなあなたを

支援する喜びを味わいたいと心待ちしています。

私はあなた達に 期待する

その若さ、しなやかさ、積極性、大胆さ、
あるいは未熟さ、荒削りさ、率直さ、正直さ……

これらをエネルギーの源として、
あなた達は既成のものに対して、
素晴らしいものには心から感嘆の声をあげ、
納得いかないものには疑問や反発を投げかける。
素晴らしいものを引き継ぎ、
納得のいかないものはつくり変えようとする。
それは私達を越えるものとなる。

大学で学ぶということは、
ふたつの相矛盾するものを含んでいる。
ひとつは、近い将来、職を得るために、
その職に求められる形に自分を当てはめる学びであり、
もうひとつは、
自分の“らしさ”を磨き活かす学びである。
このふたつの“学び”は往々にしてぶつかり合う。

私はあなた達に期待する。
是非、これらふたつの“学び”に
懸命に汗をかいて欲しい。

「若さ、しなやかさ……」をエネルギーの源として、
感嘆の声と疑問と反発をくりかえしながら……

KIYAMA Tetsuya 木山 徹哉

九州女子短期大学部長
木山 徹哉

専門は、比較教育学、教育史(中国近現代)。「教育原論」「教育史」「子ども学I」「保育原理II」などの授業を担当している。「人にやさしく」がモットー。

学びの神は設備に宿る

保健センター

九州共立大学附属図書館の1階にある保健センターは、学生の体と心をサポートする場所です。健康に関するさまざまな業務を担当しています。その一つ

として、学内で体調不良やケガをした時の応急処置や定期健康診断などがあります。また、身長や体重、血圧の測定機器、マッサージ、エルゴメーターといった健康器具なども自由に利用でき、日常の健康管理に役立っています。アルコール



ルパッチテストや禁煙サポートなど、健康に影響をおよぼす生活習慣との付き合い方についても検査や指導を実施しています。一方、心の面でも臨床心理士をはじめとする専門スタッフが相談に応じ、学生の悩みや不安、ストレスといった問題と向き合っています。もちろん、健康管理のためだけでなく、ちょっとしたおしゃべりやくつろぎの場としての利用也大歓迎。ぜひ一度、足を運んでみてください。

情報処理教育研究センター

情報処理教育研究センターでは、教育研究用コンピュータ機器とPC教室の運営を行っています。また、学内情報の基盤となるネットワークの設置利用なども担当しています。「ユビキタス」。最近、よく耳にするこの言葉は、もともと「遍在する」という意味。つまり、どこでもコンピュータが利用できる環境を指しています。福原学園でも、キャンパス内の数カ所

に無線LANスポットを設置。「ユビキタス大学」の実現をめざしています。九州共立大学には、第二学舎に講義演習室とオープンルームを設置して、およそ400台の学生専用PC機器を導入。レポート作成やネット検索などを夜間も自由に利用することができます。また、九州女子大学・九州女子短期大学では、耕学館の講義演習用教室とオープンルームに203台の学生用PCを設置。すべての機器がインターネットに接続されているため、学内・学外ネットワークを相互に利用することができます。さらに最近では、ICT教育の導入を進めるなど、時代に即した教育環境の整備に力を注いでいます。



九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館

とんがり屋根の時計台が印象的なレンガ造りの建物。それが、九州女子大学・九州女子短期大学の図書館です。建物は5階建てで、蔵書数は、和書約13万6,000冊、洋書約2万8,000冊、視聴覚資料約4,000点、和雑誌約940種、洋雑誌約130種、電子ジャーナル約5,200種。約17万冊の蔵書は、すべてデータ化され、ネットワークを通じてすべてパソコンで検索できます。所蔵していない資料は、インターネットを介して、他大学の図書館や国立国会図書館などから取り寄せ、借用することができます。また、海外から文献を取り寄せることも可能です。また、図書館のホームページには、個人のページを作成するサービス「マイライブラリ」もあります。図書館から利用者への連絡事項の確認や貸出中図書状況の参照、貸出されている図書の予約・申込もできます。さらに、ブックマークをつけた資料を自分のフォルダに保存し、その情報を参照・整理して利用することも可能です。館内には貸出返却カウンターとレファレンスカウンターを設置。レファレンスカウンターには専門職員を配置し、資料の探し方や文献収集方法などについて学生の学習や研究を支援するサービスを行っています。また、学生のインターンシップや中学生の職業体験なども受け入れています。

九州共立大学附属図書館

およそ19万冊の図書と4,000種の雑誌を所蔵する“知の宝庫”。それが、九州共立大学附属図書館です。蔵書のデータはオンラインでつながっており、館内コンピュータを使って、簡単に検索が可能。学内外に自由にアクセスして、学習に、研究に、論文作成にと、さまざまな利用されています。このポテンシャルを存分に活かしてもらおうと、図書館では新入生を対象に情報リテラシー教育を展開。蔵書検索をはじめとする図書館活用のスキルアップや学習支援など、さまざまなサポート活動を進めています。



「これはきっと成功する」
根拠のない自信の源は、
学生たちの姿だった

2008年9月。九州女子大学家政学部人間生活学科は、まったく新しい試みに挑んだ。

「アウトキャンパススタディin北海道2008」。その名のとおり、学生がキャンパスの外に飛び出し、地域に飛び込んで学ぶ実体験教育プログラムである。学生が短期滞在した学びの舞台は、北海道の過疎の町、厚沢部町。そして、その企画立案から準備、実施まで、プログラム全体の牽引役となったのが立松麻衣子准教授である。

このプログラムをとおして実践された「過疎地域の生活環境と地域再生を考える」活動は、新聞各社にも報道され、のちに厚沢部町と九州女子大学が連携協定を結ぶなど、さまざまに実りをもたらした。また、これによって学生たちの問題



発見・解決能力、自己表現力、コミュニケーションスキルも、大きく開花した。しかし、立松准教授は、その成功を事前に予測できていたという。

「スポーツでいうと、『決勝戦で勝てる』、そんな自信がありました」

もちろん、その自信をカタチにするためには、人間生活学科全教職員が総力を結集した緻密な計画と周到な準備があった。そして、参加した28名の学生たちの姿を見て、自信はさらに確かなものとなった。



九州女子大学
家政学部人間生活学科 4年
島津 裕子さん

立松先生は、私たちにとってただの先生じゃないんです。知識を与えてくれるだけでなく、一緒になって楽しんでくれる。そんな人です。だから、『アウトオブキャンパス』の話を聞いたときも、「先生がやろうとしていることだから、面白くないわけがない」と思いました。実際、参加してみても、本当によかったと実感しています。ゼロから何かをつくりあげることはタイヘンだったけど、先生の想いが伝わってきたから、私たちも頑張ることができました。

#01
学生の
総合的教育につなげる
実体験プログラム
**アウト キャンパス
スタディ
in北海道2008**

「バイトの時間さえ削って単位もつかない事前勉強会に参加している。そんな彼女たちの熱い想いがピンピン伝わってきました。みんなキラキラしていましたね」

結果、学生たちの活躍ぶりは、立松准教授の予想を大きく上まわることになる。2回のホームステイ、住民とのワークシopp、規格外農作物のレシピ提案、福岡と厚沢部町をつなぐコラボシoppの開店「北の学び」の報告会。教員の手を借りながらとはいえ、どの活動の現場でも主役はあくまで学生たちだった。

「それはもう、痛快なほど期待を裏切ってくれました」

主役を張った学生リーダーのひとり、島津裕子さん（人間生活学科4年）は、笑顔にときおり真剣な表情を交えながら振り返る。

「やはり、ホームステイが忘れられませんね。ステイ先の人たちも『裕ちゃん』って呼んでくれて、本当に親しくなりました。でも、ただやさしいだけじゃなくて、『使うときはしっかり使う』って感じで、

学生に秘められた
可能性を引き出す。
大学教員という仕事の
深さと重さを、
改めて感じています。

九州女子大学家政学部人間生活学科の実体験教育プログラム「アウトキャンパススタディin北海道2008」。その牽引役となった立松麻衣子准教授が、研究のこと、教育のこと、自身のことを語る。

ようなサポートが必要かを、衣食住や福祉などの複合的な視点で探究している。今回のプログラムは、どんな新しい視点をもたらしたのだろうか。

「厚沢部町では、住民は福祉や医療、生活面で不便を感じているのに、町を愛している。不便感を越えて愛着を抱かせる『豊かさ』『魅力』は何かを追究していくことが地域マネジメントの方向性です」

大学教員という仕事への見方も変わった。

「今回、改めて実感したのは、学生には無限の可能性があるということ。大学教員は、その可能性の入口を開けられる仕事なんだと思いました。それは、社会に巣立つ直前の世代が学ぶ大学だからできるのかもしれない。いまはそこに、この仕事の意味の深さと重さを感じています」

**獲得した新たな視点
浮かび上がる新しい課題**

かくて、初めてのプログラムは、大きな収穫とともに終わった。

「次回『アウトキャンパススタディin北海道2009』では、今回得た成果を基にさらに深めていきます。今回学生たちが提案したレシピの商品化や、情報発信の方法など町側も地域再生にむけてできることは多いはず」

プログラムをとおして得た新たな視点。それが、さらに新しい研究課題を浮かび



T A T E M A T S U M a i k o

立松 麻衣子

九州女子大学家政学部人間生活学科 准教授

Profile

奈良県出身。専門は、地域居住学。九州女子大学に赴任して5年目の2008年、「アウトキャンパス スタディin北海道2008」を担当した。趣味は剣道。目下の悩みは「婚活！」。

カバンのナカミ、バッグのヒミツ

Open Your Bag !

“一杯のコーヒー”は、生活の必需品。これが切れると、マジでオカシクなってしまうかも。

「ここ数年分の仕事のデータが詰まっています」というフラッシュメモリーには、なぜか『まりもっこり』のストラップ(?)がついている。「去年使ってみて気に入ったので、今年も愛用しています」という手帳は、黒い表紙が印象的。ピンクが鮮やかな花は、大学の事務の方からもらったもので、「けっこう癒されていますよ」と、ポツリ。で、立松准教授の生活の必需品といえば、なんといってもコーヒーということになる。「これが切れると、もうアカンッ。マジでオカシクなってしまうかも」ということらしいです。



02 人的ネットワークを活用したCPS navigationによる生涯キャリア開発型教育システムの構築

「人生にもカーナビがあったら」
きっかけはそんな思いつきだった

「グローバルポジショニングシステム」というものがある。略してGPS。“カーナビ”として自動車に搭載されているほか、最近では携帯電話にもその機能が付加されている。

いま自分がいる位置が分かる。目的地への道筋が見える。そんなGPSのような役割を果たすものが人生にもあったら……。そんなことを考えた人物がいる。

生田淳一講師。大学教員をはじめて4年。自らを“若造”と称するフレッシュな教育者である。そんな生田講師が大学に着任して担当することになったのが、学生のキャリア支援という業務だった。

「人生経験が少ない。就職活動の経験もない。そんな私が学生の相談にのる。『これでいいのだろうか……』という不安は確かにありましたね」

その不安を克服する手だてにしたいと思ったのか、生田講師はひとつのチャレンジに出る。キャリアアップカウンセリングの専門資格、CDA(キャリア・デベ

身のいまの位置“を掴む手がかりになるのではないか。それを基に、人生を歩んでいけるのではないか。あたかもGPSを搭載したカーナビのように……。

そして誕生したのが、CPS(キャリア・ポジショニング・システム)。いわば“人生版カーナビゲーション”である。

このCPSは、「キャリアアドバイザー制度」に支えられている。これは、学生ひとりに対してひとりの担当教員がつき、生活や就職の相談にのるというもの。生田講師は、これを基盤にして、新たに「ナビゲーター・バンク」を立ち上げ、大学OBをはじめ地域や企業の人々をナビゲーターとして登録した。そして、そうした人々との出会いを、講演会や座談会とおしてコーディネートしていったのである。

身につけてほしいのは、
生涯をとおして
目標を求めつづける力

このCPSシステムは、「生涯キャリア開発型教育システムの構築」人的ネットワークを活用したCPS navigationによる生涯キャリア支援」として、平成19年度の「現代GP」に選定されている。

GPとは「Good Practice」優れた取り組み」の略。各大学が実施する教育改革の取り組みのなかから、文部科学省が優れた取り組みを選び、これを支援・援助するというものだ。

快挙には違いない。が、喜んでばかりはいられない。生田講師は言う。
「CPSはまだ発展途上のシステムです。現代GPでは、今後の可能性を評価されたにすぎません。だから、チャレンジしつづけては意味がない。3年目

ロップメント・アドバイザー」に挑戦したのである。結果、見事に資格を取り、自信を得た彼は、さらにキャリア支援との関わりを深めていくことになる。大学のキャリア教育プログラムの企画立案を任されたのだ。

それは“人生版カーナビ”
指針となるのは、
人生の先輩たちの声。

きっかけは、ひとりの九州共立大学OBとの出会いだった。ある日、生田講師は、キャリア支援の関係部署のスタッフが集うミーティングに参加する。そこにいたひとりの職員、彼は大学のOBでもあった。彼が語った後輩への想いに、生田講師は強く惹きつけられたという。
「その人の後輩への想いがとにかく熱かった。すぐにピンとききました。ひょっ

いまの自分を知り、
未来を見とおす。
キャリアづくりの第一歩は、
ここからはじまる。

文部科学省の現代GPに選定された

「人的ネットワークを活用したCPS navigationによる生涯キャリア支援」

生涯キャリア開発型教育システムの構築」。

この取り組みを牽引してきたのが、
経済学部の生田淳一講師である。

若き教育者が創りあげた画期的なシステムの誕生秘話を聞いた。

を迎えるいま、CPSの完成をめざして、積極的に新たな取り組みを進めています」

手応えは、ある。たとえば、いま力を入れている企画のひとつに、社会人講師を招いて開く座談会がある。講師たちが学生の悩みや不安にざつくばらんに答えるのだ。将来、自分は何をすればいいのか。そのためにいま、何をすべきか。おとなしいと思っていた学生が、思いのほか自分について熱く語るときがある。

「その様子を見てみると、学生も本当はこういう場を求めているんだなと感じます。先輩の体験談を聞く。そんな縦のつながり“に、本当は餓えていたのかもしれないません”

こうした取り組みをとおして、生涯にわたって目標を求めつづける力を身につけさせること。それが、CPSの最終ゴールといっている。

生田講師の専門は教育心理学。大学では教職課程を担当している。

「学生たちには、ぜひキャリア教育のできる教員に育ってほしい。そして、教職を取る取らないにかかわらず、卒業後はCPSの取り組みに参加して、後輩にメッセージを送ってほしい。そうすることで、伝える側のOB自身も成長していけると思うんです」と語った生田講師。その横顔は、けっして“若造”のそれではなく、頼れる“人生の先輩”そのものだった。



カバンの中ミ、バッグのヒミツ Open Your Bag!

この4色ボールペンだけは、
絶対に欠かせない。
忘れたら、取りに帰ります。

電子辞書は、学生が「これ、イイですよ」と言っていたので使いはじめたという。A5版のノートには、授業のネタがぎっしり。“大学教師の秘密”が書き込まれていた。愛用の手帳は、その厚みが印象的。「放っておくと、どんどん分厚くなってしまいうんですよ……」と、苦笑がもれる。そして、最愛の4色ボールペン。「忘れたら取りに帰ります」というほどのお気に入りだという。



とすると、ここにキャリア教育の新しいヒントがあるんじゃないか……。そんな予感がありましたね」
先輩が後輩に向ける気持ち。そこには、嘘も誇張もないストレートな“熱”がある。これを活かす方法があるのではないか。OBやOGだけではない。教職員もいる。地域の人たちもいる。
そんな人生の先輩たちの生きた情報が、“学生自

IKUTA Junichi

生田 淳一

九州共立大学経済学部 講師
Profile

山口県出身。専門は学校教育心理学。2005年九州共立大学に着任。現在は、教職課程を担当するほか、学生のキャリア支援に関わる。「趣味は家族サービス」という“よき家庭人”でもある。「夢は、本の出版」と語る。

Active Student's Report — #1

課外で輝く

幼い頃は、父とのキャッチボールが楽しかった。小学校では、少年野球のグラウンドを駆けまわっていた。かけっこも速かった。先に陸上をはじめた兄の試合を見にいったとき、「面白そうだな」と思った。そして、中学に入学。迷わず、陸上部への入部を決めた。

そんな中島香鷹くんは、九州共立大学の3年生。陸上部に所属し、短距離のランナーとして活躍している。彼が課外活動として取り組んでいるのがNPO法人リパティヒル・アスリートクラブ（LAC）のコーチである。

LACでは、大学の学生たちがコーチとなって、地域の子どもたちにさまざまなスポーツを指導している。中島くんがその噂を聞きつけたのは、大学1年の夏だった。



「僕が陸上をはじめたのは中学に入ってからでした。だから、もっと幼い、小学生くらいの子どもたちが陸上をやっていると聞いて、どんなふうに取り組んでいるんだろうかと興味を持ったんです」早速、LACの代表を務める船津准教授のもとに走った。そこで、「自分にもやらせてほしい」と直談判。夏休み明けにはコーチとしてグラウンドに立っていた。

そんな迷いの日々が続いた。「練習が終わったあとの反省会で、先輩の学生コーチが僕の指導法についていろいろと指摘してくれました。そのアドバイスがとても参考になりましたね」それから3年。とまどいは、いつか楽しさに変わっていた。

「いま、子どもたちの成長ぶりを見るのがいちばんの楽しみなんです。僕が参加しはじめた3年前から通っている子がいるんですけど、前はまったくできなかったことができるようになっていたり、今日は、昨日よりもうまくなっていたり。そういうことを肌で感じられるのが、とても嬉しいんです」

課題をクリアしたときの子どもたちの笑顔。それは、コーチとしてではなく、ひとりの陸上競技者としての中島くんに、改めてスポーツの楽しさを教えてくれたという。教えることで、教えられる。その実感をも、いま、彼は全身でかみしめている。

LACでは、子どもの発達段階に応じて、多種多様な遊びや運動を指導に取り入れている。キッズ（幼稚園、ジュニア（小学生）、アスリート（中学生以上）と分かれた部門のなかで、中島くんが「自分に合っている」と感じているのが、キッズの指導である。LACでは、この世代の子どもたちに、遊びをとおしてスポーツの楽しさや面白さを伝え、あいさつなどの礼儀を教えている。

「厳しさのなかに、やさしさがある。ルールを守らないときはきちんと叱る。

◎九州共立大学NPO活動

教えながら、教えられる日々。 学生コーチは、 スポーツをとおして 子どもとともに 成長していく。

NPO法人リパティヒル・アスリートクラブ（LAC）。そこは、スポーツをとおして子どもたちが成長する場所。そして、子どもたちへのコーチングをとおして、指導者自身が成長する場でもある。その活動を、学生コーチ・中島香鷹くん聞いた。



NAKASHIMA Yoshitaka

そんな時間とともに過ごしながら、子どもたちと一緒に笑顔で成長していく。そんなコーチになれたらと思います」もともと、指導者をめざしていたという中島くん。夢に過ぎなかった将来像が、LACでの活動をとおして、より具体的なものになってきた。いまの目標は、「子どもたちのスポーツ指導者になること」と、胸を張った。

「いまの子どもたちは体力が低下していると言われます。スポーツ嫌いも増えている。そうだった子どもたちに、まずスポーツを好きになってもらえたい。そして、子どもときだけじゃなくて、生涯をとおしてスポーツと関わってほしい。そのきっかけをつくれればと思います」幼い頃、父や兄が教えてくれたスポーツの楽しさ。それをいま、彼自身が子どもたちに伝えている。多くのキッズたちの想い出のなかに、「中島コーチ」の笑顔もしつかりと刻まれていくに違いない。



■NPO法人リパティヒル・アスリートクラブ（LAC）

もともとは、九州女子大学の陸上部の出身者で設立された社会人のスポーツクラブ。そこに、自由ヶ丘高校の卒業生が参加するようになって活動が活発化した。平成18年、子どもを対象とした下部組織を設立。平成20年、特定非営利活動法人（NPO）となった。現在は、小学生を中心にして75名ほどが会員となっている。クラブでは、子どもたちの発育・発達段階にに応じて、さまざまな運動や遊びを取り入れた指導を展開。科学に基づいたトレーニングをとおして、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えている。



九州共立大学スポーツ学部
NPO法人
リパティヒル・アスリートクラブ（LAC）代表
船津 京太郎 准教授

**教えつづけることで、教える側も
変わってくる。
彼は、本当に成長しましたよ。**

LACには、子どもたちへのスポーツ指導のほかに、「優れた指導者の育成」という目的があります。現在、九州共立大学と九州女子大学の学生20名が学生コーチとして活動しています。中島くんは、どちらかといえば、おとなしい学生で、最初はなかなか声が出ませんでしたね。でも、3年近く続ければ、教える側も変わってくる。彼は、本当に成長しましたよ。いまは、安心して子どもたちを任せられます。将来は、幼児教育に進みたいという希望もあるようです。表には出さないけれど、心のうちに強い意思を秘めているのが分かります。ぜひ、その夢を叶えてほしいですね。

NPO法人リパティヒル・アスリートクラブ（LAC）代表 学生コーチ
九州共立大学スポーツ学部スポーツ学科3年

中島 香鷹 くん

Profile

佐賀県立佐賀北高等学校出身。中学、高校、大学と、陸上部に所属。大学1年からNPO法人リパティヒル・アスリートクラブ（LAC）の学生コーチを務め、将来は幼児スポーツの指導者をめざしている。

Active Student's Report #2

【課外で輝く】

◎学生サポーター

教師をサポートし、教育の現場を知る。そこから、“憧れ”は“目標”へと変わっていく。

2008年6月、九州女子大学と九州女子短期大学は、福岡市教育委員会と「学生サポーター」制度の協定を結んだ。そのきっかけとなったのが、九州女子大学の篠原望さん。大学と教育委員会を動かした彼女の活動について聞いた。

委員会に直接メールを送ったのだ。大学からではなく、個人として学生サポーターに申し込みたい。そんなことを考えたのは、彼女が初めてだった。最初は、「前例がない」と断られた。しかし、簡単に諦められるわけではない。数度のやりとりを経て、想いは実を結ぶことになる。派遣先は、福岡市西区の小学校。週に1度、合計12回通った。そこで彼女は、生の教育現場を知ることになる。



SHINOHARA Nozomi

九州女子大学人間科学部人間発達学科4年

篠原 望さん

Profile

福岡県立城南高等学校出身。幼少の頃から先生になることを夢みて、九州女子大学で小学校教諭、幼稚園教諭の資格を取得。この春から福岡市の小学校教諭として勤務する。

「大きな収穫でした。憧れだった」先生“たちが教壇の裏側でどんな苦勞をしているのかも分かったし、子どもたちが意外なところで躍（は）ることも知りました。とても意味のある体験でしたね」

その後も、3年の後期、4年の前期・後期と、福岡市の「学生サポーター」と、中間市で実施されている同様の活動「学習サポーター」に参加した。小学校教諭と幼稚園教諭。ふたつの資格の教育実習の合間をぬってのことだった。

ここまで熱心に取り組んだのも、すべては幼い頃から抱きつづけた夢のため。そしてそれは、いよいよこの春、現実のものとなる。

「まず、私自身が輝いていたと思います。とにかく毎日を楽しめる先生でいたい。『先生と一緒に勉強したら楽しい』と言われるような教師をめざします」

篠原さんの活動をきっかけに、九州女子大学と九州女子短期大学は、福岡市教育委員会と「学生サポーター」制度の協定を結んだ。ひとつの道が開かれたのである。いま、多くの後輩が篠原さんのあとに続いている。

■「学生サポーター」制度

福岡市教育委員会と協定を結んだ大学が学生を福岡市立の学校に派遣。授業や休み時間、課外活動などで教員をサポートする。その学生が「学生サポーター」だ。中間市にも同様の「学習サポーター」制度があり、九州女子大学はすでに協定を結んでいた。2008年には篠原さんの活動をきっかけに、福岡市への派遣もスタート。教員をめざす学生が現場を体験することで、モチベーションを高めることにもつながっている。



【学内にコンビニがオープン From九州共立大学】
大学構内にローソンがオープン！
キャンパスライフがより便利になりました。

2008年9月。九州共立大学に、コンビニエンスストア・ローソンがオープン。大学の向かい側にある「ローソン九州共立大学前店」のサテライト店として営業をスタートしました。およそ半年が経過した現在では、煉瓦づくり風の外観が、大学の雰囲気

にすっきり溶け込み、学生だけではなく、地域の人々にも親しまれています。店に隣接するカタチで、一度に40名ほどが利用できるイートインスペースも設置。手洗い場、セルフサービスの電子レンジなども設けられ、店で購入したお弁当やインスタント食品をその場で食べられるようになっています。そのため、このスペースは、学生が集い、語りあう“憩



いの場”にもなりました。この店のオープンは、さらに快適で便利なキャンパスライフにつながったようです。

【学生食堂オープン From九州共立大学】
学生食堂を全面リニューアル！ロイヤルの運営で、メニューもさらに充実。

ローソンのオープンと同じ日、九州共立大学の学生食堂もリニューアルオープンしました。食堂を運営するのは、外食企業

のロイヤル西日本。九州の大学でロイヤルが学食を運営するのは、2校目となります。レストラン「ロイヤルホスト」



と変わらない質の料理を低価格で提供する。そんな食堂には、栄養もボリュームもたっぷりの定食類、麺類、丼ものなど多彩なメニューが並んでいます。また、学生のニーズに応じて、ほとんどのメニューで“大盛り”が可能。学生たちが健康で元気なキャンパスライフを送る。そのためのエネルギー源となってくれそうです。

食堂内はゆったりとした造りで、くつろぎながら食事を楽しめる雰囲気。地域の方々にも、一般の食堂と変わらない感覚で利用していただけます。

Liberty
Top!cs

【トピックス】
学校法人福原学園の
“いま”を知らせる
トピックスの数々。